

## ヴォルフスブルグ市国際青年会議で得た学び

愛知県立大学 4年 原 有紀名

この度はヴォルフスブルグ市国際青年会議に参加させていただき、誠にありがとうございました。様々な文化をもつ海外の若者とドイツで過ごした1週間は、とても多くの発見や学びを与えてくれました。

会議は3回開催され、具体的には” Sustainable Development Goals (SDGs)” 、” do it yourself” 、” woman and



会議中の写真

sustainability” というトピックでディスカッションやワークショップを行いました。それぞれのトピックで学んだことを以下簡単に紹介します。

” SDGs” のディスカッションでは、掲げている目標をすぐに解決することは困難でも、私たち一人一人が行動することで周りを動かし、社会を少しずつでも変えていくことが大切だと学びました。” do it yourself” では、普段私たちの使っている身近な物から、デオドラントや封筒などを作りました。これらはとても簡単に作ることができるので、サステイナブルな暮らしは想像よりも難しいことでなく、すぐにでも始められる事だと学びました。” women and sustainability” のディスカッションでは、女性も男性と同様の教育を受け、積極的に発言していき、対等な地位で協力していくことが重要だと学びました。どの会議においても、参加者は積極的に質問や発言をしており、時には意見の対立があってもお互いの考えを尊重している姿が見られました。年齢は若くても、皆が社会をより良くしたいという想いを持っており、そしてこの想いは実際に社会を変える原動力になると思いました。

この1週間は会議の学びだけではなく、豊橋市とパートナーシティ協定を結んでいるヴォルフスブルグ市の魅力についても沢山学ぶことが出来ました。Volkswagen の工場見学、科学館やキャンプ場などにも訪問させていただきましたが、ほとんどの施設が宿泊したユースホテルから徒歩圏内にありました。実際に自分の足で街を散策することで、自然の豊かさや住みやすさ、またそこで出会った現地の人達の優しさに触れる事が出来ました。他にも文化の違いが多く見られました。例えば環境への配慮についてです。町のいたるところにゴミ箱が設置してあり、そのため道端にゴミが落ちていることはほとんどありませ

んでした。また、なるべく車を使わないように「E スクーター」というモーターで走る電動キックボードが道路の至る所にありました。このキックボードは手軽な料金でレンタルすることができ、指定地域内であればどこでも乗り降りすることができます。他にもペットボトル回収はデポジット制度を導入しているため、使い捨てるのではなく、ペットボトルを繰り返し使うという意識が市民一人一人に根付いていました。これらはヴォルフスブルグ市に限定したことなく、ドイツ全土において行われていることだそうです。環境の配慮に関して日本もドイツに学ぶべき点が多くあると感じ、今後積極的に取り入れていけたら良いと思いました。



ヴォルフスブルグ市市長とともに

また買い物の際にも文化の違いを感じました。日本ではスーパーで買い物をしている時に他人から話しかけられることはほとんどないですが、「このお菓子おいしいよ！」や、「あなたの持っている商品はどこにおいてあるの？」など、ドイツ語で何度か声をかけられました。ヴォルフスブルグ市は英語ではなくドイツ語でないと通じない状況が上記のように幾度かありましたが、私は大学においてドイツ語を習っているので実際にその学びが役立つ機会があり嬉しかったです。次にドイツへ行く際は、再びヴォルフスブルグ市に足を運びたいと思っています。

今回ヴォルフスブルグ市国際青年会議で滞在させていただいた一週間は、上記に述べたように大変多くの経験をさせていただきました。文化の違いや価値観の違いなど今まで経験したことのない新たなことに触れることで、今まで自分の持っていた小さな考えを広げることができました。また、世界各国にかけがえのない大切な仲間を沢山作る事もできました。今回出来た経験や縁を生涯大切にしていきたいです。改めてこのような貴重な経験を与えて頂き、豊橋市、ヴォルフスブルグ市、そして協力して下さったすべての皆さまに大変感謝いたします。これからも未来を担う多くの若者にこの会議に参加して頂き、開かれているドアを閉ざす事なく、社会がますます切り開かれていくことを望みます。